



瀬崎小だより 12月

学校教育目標 心豊かでたくましい子

「まなびいっぱい・たくましさいっぱい・やさしさいっぱい」

令和4年11月30日 児童数543人

草加市立瀬崎小学校

12 つくる責任
つかう責任



15 陸の豊かさも
守ろう



かっとなし！！

～折れたバットを再利用～

校長 奥村 勇

それにしても給食は進化しました。自分の小学生の頃と比べても、メニューの豊富さ、味付けのバリエーション等、隔世の感があります。今日も、美味しい給食を「かっとなし！！」と共に幸せにいただきます。「かっとなし！！」??

プロ野球をはじめとした野球界では、年間約20万本もの木製バットが消費されています。野球観戦をしていて、バットが折れるシーンというのは、珍しくはありません。力と力の勝負の醍醐味！！致し方ないところですが、役目を終えたバット達は、実は、私たちの身近なものへと変身していました。

福井県のとある老舗箸メーカーでは、野球界とタッグを組み、「折れた木製バットを捨ててしまうのはもったいない！」ということで、「箸」に生まれ変わらせています。それが、「かっとなし！！」。粋なネーミングです。およそ年間1万本のバットが回収され、1本のバットから5、6組の箸ができるそうです。12球団のロゴ入りがありますが、「日本ハムファイターズ」バージョンを愛用しています。

「アオダモ」は、長年バットの素材として愛されてきました。特に、北海道産のアオダモは、反発力と弾力性、そして耐久性に優れ、木製バットの材料としては最適とされています。しかし、無計画伐採してきたために、今では、プロ野球選手のバットに使えるようなアオダモは枯渇しつつあります。イチロー選手や松井選手も日本プロ野球時代にはアオダモのバットを使用していましたが、他材料のバットに切り替えざるを得なくなりました。

そこで、プロや大学、高校、少年野球の関係者らは、NPO法人「アオダモ資源育成の会」を作り、20年以上北海道で、苗を植えています。バットに使える大きさになるのは、60～70年後だそうです。最高級のバットの登場が待たれます。

「かっとなし！！」シリーズの売上げの一部も「アオダモ資源育成の会」を通じて、アオダモの植樹や育成に利用されています。

「この箸が、プロ野球選手のバット？まさか、今をときめく村神様バット！」

「アオダモのバットが再びプロ野球で活躍できますように。」

「このユニークな活動は、メジャーでも話題！世界に広がる可能性も！」

「バットのリサイクルに森林の復活！正に、SDGs！！」

「かっとなし！！」を眺めながら、あれこれと夢想する元野球少年でした。